

2022 年度 経済学部 FD 活動報告

2022 年度の経済学部 FD 活動計画に従って下記の活動を行った。

1. 学生対象

(1) 「学生生活とその成果に関するアンケート」

毎年 12 月に 4 年次生を対象として行っている学生生活とその成果に関するアンケート（以下、学生生活アンケート）を 2022 年度も実施した。このアンケートでは、大きく「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」の項目について 21 個の質問項目を設定している。本年度は学修成果の測定を年度内により効果的に行えるよう、2022 年度はアンケート用紙を用いて 11 月に行った。その結果、回収率は 8 割あまりと 2021 年度よりも向上し、より正確な測定を行えるようになった。

このアンケートの結果は FD 委員によって分析され、その内容が 2022 年 12 月 14 日の第 3 回経済学部 FD 研修会において報告された。また、毎年この結果と分析をふまえて次年度の経済学部研修会の議題を設定する。

(2) 「経済演習制度」

経済学部では 3 年間のゼミ活動が必修として義務づけられている。1 年次には、経済基礎演習において担当教員の指導を受け、議論の仕方や資料検索の方法、論文・レポートの書き方などを学び、全てのゼミで春学期に「書評」または「修了レポート」を、秋学期に「修了論文」を提出することとなっている。

3・4 年次には、経済専門演習において 2 年間、同一の教員から専門的な指導を受け、最終的に卒業論文の作成へと結びつける。この 2 年間の内に、国内外の他大学との研究発表会やインターゼミと呼ばれる活動を行うゼミナールも存在している。4 年次の最後には、卒業論文を提出しなければ経済専門演習 IV の単位が与えられない。学生生活アンケートでは 90.0%が 3 年間の経済演習制度に「非常に満足」、あるいは「まあまあ満足」と回答していた。

(3) 「能力別クラス編成」

2009 年度から「経済学のための数学」で、2012 年度から「ビジネス英語」と「時事英語」で能力別クラス編成を実施している。受講生の状況に応じて到達目標や教授方法に差異を持たせることで、きめ細かな指導が可能となっている。学生生活アンケートでは、85%以上の学生が能力別クラス編成に満足している（「経済学のための数学」に対しては 92.5%、「ビジネス英語」「時事英語」に対しては 87.2%）。

(4) 「経済学部オリエンテーション」

経済学部では、例年、3/31～4/3にかけて、新入生に対して学部長講話、経済学部のカリキュラム説明、1年次のゼミガイダンス、第1・第2クォーターの履修登録指導、数学テストといった内容の新入生ガイダンスを実施している。新入生にとっては最初に大学と関わる場であり、ここでカリキュラムのねらいやゼミの内容、学生生活上の留意点、進路決定に向けた心構え等について説明を行っている。2023年度は感染症への対策を行ったうえで、新入生が尋ねやすいよう在学生10名ほどに指導補助をお願いした。また、4月13日に経済学部新入生を対象とした経済学部での学び方講座を実施した。

(5) 「経済学生論集」

指導教員から推薦された個人やグループによる論文を、『経済学生論集』（南山大学経済学会発行）としてまとめている。2022年9月に刊行された第36集には6編の論文が掲載された。また、論集の最後には、2021年度に提出された全ての卒業論文のタイトルが記載されている。

(6) 「学部長表彰者との懇談会」

毎年5月に、成績優秀者に対する学部長表彰式の後に、学部長と学科長が表彰を受けた学生との懇談を行っている。ここで集められた意見は教授会や学部研修会などで報告され、必要があればそれに対する改善提案がなされている。ただし、2022年度はコロナ禍の影響のため中止し、これに代えて、対象学生から教務関係に係る項目を中心に意見聴取（アンケート）を行い、その結果について6月29日の教授会で報告された。

2. 教員対象

(1) 第1回経済学部FD研修会（6月29日）

第1回経済学部FD研修会では、「新たな学园内ハラスメント相談体制とそれに関わる学生へのサポートについて」というテーマで、新たな学园内ハラスメント相談体制の説明、学生への周知依頼、およびハラスメント相談に関わる学生へのサポートについて、情報提供および議論を行った。

(2) 経済学部研修会（第2回経済学部FD研修会：9月8日）

2022年度のFD研修会では、「推薦入学試験のあり方について」、「キャリア科目について」、「経済学部での学び・学生生活に関するアンケートについて」、「経済学部広報用webコンテンツについて」、「入学時数学テストにおける入試種別による得点差とその対応について」などのテーマで議論した。また、「入試種別による成績追跡調査」についての報告があった。

(3) 第3回経済学部FD研修会（12月14日）

「学生生活アンケート」の分析結果について報告・議論が行われた。今年度も、2021年度と同様に、「進路」、「卒業論文」、「学生生活」、「経済学部の教育」に関する項目について、アンケート結果を集計・分析し、学生の学生生活の実態把握およびディプロマ・ポリシーに掲げている学部教育の達成評価を行った。

(4) 第4回経済学部FD研修会（2月16日）

第4回経済学部FD研修会では、「ティーチング・ポートフォリオ・チャートによるリフレクション」というテーマで、東京大学の栗田佳代子先生にご担当いただいた。ティーチング・ポートフォリオ・チャート(TPチャート)の作成を通じて「教育活動を俯瞰できる」「教育理念に自ら気づいて書ける」「教育理念と方針・方法の結びつきを説明できる」「長期目標・短期目標を設定できる」ようになることがこの研究会の目的で、栗田先生の指導の下、ペアワークを通じて、TPチャートの作成を行った。この研修会には経済学部教授会構成要員だけでなく、他学部等からの参加もあった。

(5) 経済学部FD委員会（メールによる報告・議論；3月4日から同月10日）

FD委員、教務委員、入試広報委員、学生委員、キャリアサポート委員で構成される経済学部FD委員会を開催し、2022年度のFD活動を確認した上で、2023年度のFD活動計画について議論した。

なお、上記の2022年度の経済学部FD活動について、半期ごとに、3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシー）の内容を再確認したうえで、全てのFD活動が、ディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーに基づく活動であったことを確認した。